



犬・笑・暮だより vol.32

愛犬の命を守るためにできること



誰も、家族である愛犬には、健康で一日でも長くそばにいて欲しいですよね。そのために、飼い主である私達にはできることがたくさんあります。私達人間とは異なった種族である愛犬。健康管理の正しい知識を身に付け、ちょっとした日常の気配りをしてあげて、わんちゃんと一緒に健やかに優しく楽しい暮らしを送りましょう！

●ワクチンの知識①

わんちゃんには年に1回ワクチンの予防注射をします。これは、危険性が高い幾つかの感染症の予防注射になります。3種混合・5種混合などと、幾つかのワクチンを混合型でするものから、特定の1種類のみのでワクチンまで様々ありますが、どれも重症化しやすいものや死亡率の高い感染症になります。

私達人間も、毎年インフルエンザなどの流行に備え、子供やお年寄りには優先で、またその他の方も予防接種を希望したりします。もちろん、予防接種をしておけば絶対その病気にかからないかと言えば、その保証はありません。けれども、その病気にかかりにくくなりますし、万が一かかってしまった時も、命の危険などには及ばない軽症で済む可能性が高くなります。

現在はワクチン接種の普及が進み、例えば怖い伝染病のひとつ、犬ジステンパーなどが大流行することはなくなりました。そのような目に見えた恐怖が減ったためや、室内飼いでほとんどお外へは出さない、小型犬の体力が心配……などの理由からか、最近はこのワクチン接種をしなかったり、2年や3年に1回、という飼い主さんも見受けられます。

けれども、人間と違って、犬は終生抗体と言うものを作ることが出来ません。私達人間は、幼い頃などに予防接種をすると、その時作られた抗体が、ほぼ一生に渡って活躍してくれます。しかし犬の抗体は、時間がたつと次第に効力が低下してしまいます。そこで、安全性を考えて、1年に1回ワクチン接種が行われています。

ぜひ、愛犬を怖い感染症から守るために、獣医さんと相談して、何種類かの混合ワクチンを毎年1回接種して下さい。

Mini Column

昭和初期に、かの文豪が提唱した「愛犬家心得」

日本初のノーベル文学賞作家、そして「伊豆の踊り子」や「雪国」などの作品で知られる川端康成は、無類の犬好きでした。ワイヤー・フォックス・テリア、コリー、グレイハウンドなど飼っていて、昭和八年（1933年）には「愛犬家心得」というエッセイまでも発表しています。川端康成の提唱した愛犬家心得とは……。

- 一つ、血統書ばかりではなく、親犬の習性を良く調べた上で、子犬を買う。
- 一つ、放し飼いをしない。
- 一つ、犬を訓練所に入学させ、また、犬猫病院へ入院させるにも、預け先の犬の扱いをよく知っておく。
- 一つ、一時のきまぐれやたわむれ心から、犬を買ったり、もらったりしない。
- 一つ、数を少なく、質をよく、そして一人一犬を原則とする。
- 一つ、犬も家族の一員のつもりで、犬の心の微妙な鋭敏さに親しむ。
- 一つ、犬に人間の模型を強いて求めず、大自然の命の現れとして愛する。
- 一つ、純血種を飼う。
- 一つ、病気の治療法を学ぶよりも、犬の病気を予知することを覚える。
- 一つ、先ず、牝犬を飼って、その子どもを育ててみる。
- 一つ、犬を飼うというよりも、犬を育てるという心持をどこまでも失わない。

現在の状況には即さない部分もありますが、放し飼いが当たり前で、今は犬に対する考え方が全く違う時代に、とても先駆的な考え方をしていたようです。川端康成「愛犬家心得」は、『クラフト・エヴィング商会プレゼンツ 犬』（中公文庫）で読むことができます。



愛犬に関するお住まい・お庭のお悩みは **庭遊館** にお気軽にご相談下さい



庭園工事・外構工事・管理・設計施工

株式会社 庭遊館

〒504-0945 各務原市那加日新町6-65

TEL 058-216-3110

FAX 058-216-3113

<http://www.teiyukan.jp>

